

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373400429
法人名	有限会社 ふなびきメディカル
事業所名	グループホーム ほほえみ
訪問調査日	平成21年1月21日
評価確定日	平成21年2月17日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2373400429		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	犬山市前原西三丁目33番 (電話) 0568-65-3344		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年2月17日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	20年4月1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人
職員数	20 人	常勤 12人, 非常勤 8人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30日: 51,700 円 31日: 52,700 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	550 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年12月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	4 名	女性	21 名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	7名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	68 歳	最高	98 歳
協力医療機関名	医療法人 ふなびきクリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはクリニックを中心とする医療・介護・福祉グループの一つで同じ敷地内にはデイサービスセンター、老人保健施設等の施設がある。入退居や行事などで連携が図られており、ことに医療面では24時間即時の対応が可能であり、入居者、家族の安心につながっている。職員の離職が少なく、多くの職員が認知症介護実践研修を受けており、毎月の接遇自己チェックや管理者の具体的できめ細かい指導など、質の良いサービスの提供にむけ取り組んでいる。職員は入居者が何ができて何ができなくなったかを見極め、どこをサポートしていけばその人がその人らしく暮らしていけるのかを探りながら一人ひとりに添ったケアを心がけている。職員間のチームワークも良く入居者、家族との間にも信頼関係が築かれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	初回のため前回の評価はない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者の説明を受け全職員が自己評価に取り組んだ。質問項目が多いため時間をかけて行ったが、自分たちのできていないところが分かり、今後の指針となると考えている。ほかに毎月ホーム独自で接遇自己チェック、危険リスクチェックを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 参加者は市職員、自治会役員、民生委員、老人会、地域住民、入居者、家族などである。ホームへの理解、協力を得るため自治会長、老人会長の協力を得て開催の案内を配布し地域住民にも参加を呼びかけている。会議では活動報告を行い、参加者から質問、提案をいただいている。また、警察、消防、保健所の方を招き講演、講習を行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホーム独自で無記名の家族アンケートをとり家族が率直に意見、苦情を出しやすいようにしている。感謝の気持ちのほか厳しい意見もあったが、家族の気持ちがわかったので今後の運営に反映させたいとしている。家族からの意見について会議で話し合った見解をまとめ、回答書として全家族に郵送した。運営推進会議への家族の参加も多く、その場で意見を出している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの行事は地域、老人会の役員との協力でお知らせを回覧してもらい地元の人々にも参加を呼びかけている。夏祭りは今年はいづ開催するのかわかれるほど馴染みになっており、百人ほどの参加があった。自治会に加入し自治会主催の歩け歩け大会に参加してコースの半分ほどを歩いた。近隣の人に散歩の際に立ち寄りてもらったりホームの花壇の花の株をお裾分けしたり、災害時には協力し合える関係を築いている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は『地域との交流を密にこの地に根ざし その人がその人らしく暮らせる家』である。ホームは今まで地域との交流に積極的に取り組んでおり、今回地域密着型サービスの役割を再確認し、日ごろ実践していることを誰もが分かりやすい言葉で理念の中に盛り込み地域密着型サービスとしての理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、フロアなど目につくところに貼ってあり職員は常に理念を意識しながらケアに当たっている。日ごろよりどのようにサポートしたらその人がその人らしく暮らして行けるかを考え、話し合っており、管理者は会議や実際のケアの場面で理念に基づき具体的に指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事は地域、老人会の役員の協力でお知らせを回覧してもらい地元の人々にも参加を呼びかけている。夏祭りは今年はいつ開催するのか聞かれるほど馴染みになっており、百人ほどの参加があった。自治会に加入し自治会主催の歩け歩け大会に参加してコースの半分ほどを歩いた。近隣の人に散歩の際に立ち寄ってもらったりホームの花壇の花の株をお裾分けしたり、災害時には協力し合える関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価、外部評価に積極的に取り組みサービスの質の確保に活かしていく姿勢を持っており、ホーム独自でも毎月自己チェックを行っている。理念の見直しを行い、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげ、自己評価は職員全員が時間をかけ話し合っており取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>参加者は市職員、自治会役員、民生委員、老人会、地域住民、入居者、家族などである。ホームへの理解、協力を得るため自治会長、老人会長の協力を得て開催の案内を配布し地域住民にも参加を呼びかけている。会議では活動報告を行い、参加者から質問、提案をいただいている。また、警察、消防、保健所の方を招き講演、講習を行っている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日ごろより市の長寿社会課に相談したり情報提供をしており、ホームの様子は良く理解してもらっている。市の介護相談員派遣を受け入れており、市担当課と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「ほほえみだより」を発行し、行事や入居者の日ごろの様子を写真にコメントをつけて報告している。入居者の生き生きとした表情が見られ家族の楽しみとなっている。健康状態、往診時の医師からの話は電話で報告、個人の買い物があれば立替払いとし領収書をつけて郵送している。家族が面会に来た時には積極的に声をかけて近況を伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム独自で無記名の家族アンケートをとり家族が率直に意見、苦情を出しやすいようにしている。感謝の気持ちのほか厳しい意見もあったが、家族の気持ちがわかったので今後の運営に反映させたいとしている。家族からの意見について会議で話し合った見解をまとめ、回答書として全家族に郵送した。運営推進会議への家族の参加も多く、その場で意見を出している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は若干あるが最小限である。勤務表作成は話し合いで調整するなど働きやすい職場づくりに努めている。離職する職員は少なく、開設時からを含め長く勤めている職員が多いため、職員の交代による入居者のダメージは見られない。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者に対してはベテランの職員がマンツーマンで指導をする。ほとんどの現任者が認知症介護実践研修を受けている。法人内の研修はパートを含めすべての職員が交代で出席し、申し送りなどで他の職員に報告し資料を全員に配布している。主任はケアに対する高い目標を持ち、実際の場面で気がついたことがあればそのつど具体的に指導している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会に加入している。市内にある4グループホームとは管理者間の交流があり、サービスの質の向上を目指した情報交換をしている。市外の同じ法人のホームとは入居者、職員が訪れるなどの交流がある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と共に見学に来てもらったり、ホームの行事に参加してもらい雰囲気に馴染んでもらっている。職員が病院や自宅に面接に出かけるケースもあり、職員にも馴染んでもらえるようにしている。新しい入居者があれば他の入居者が温かく迎え入れ、それが本人の安心感につながっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を一方的に介護されるだけの立場に置かず、時間はかかってもできることは自分でしてもらい、できなかったことができるようになったときは共に喜んだり、言葉のない方でもしっかりと手を握って気持ちを通わせたりしている。入居者の笑顔に癒されることもある。元気な方からは作法や草花の名前、野菜のことなどたくさんを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で会話する機会を多く持ち、本人の意向、希望を聞いたり、日々の行動や表情から汲み取るよう努めている。また、日ごろより見聞きしたことや気がついたことをメモファイルしケースカンファレンスで取り上げ話し合っている。把握が困難な場合は家族から情報を得たり本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居してからは1週間～10日の経過観察の意見交換で介護計画を作成している。落ち着いた生活が継続時には3カ月に1度介護計画の見直しをしている。月に1度会議を開いて本人の希望や家族の意向、職員からの気づき、医療面からのアドバイスを会議で話し合っている。入居者本位の介護計画は一律でなく、情報収集をして意見交換やアイデアを出し合っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月の会議でケース会議を持ち話し合いをしている。日々の様子や変化を記録に残し全員で共有している。変化は敏感に察知しており、緊急性のあることや喜びに関わることは申し送りノートで周知して対応をしている。一連の観察、対応で介護計画の見直しに本人、家族、職員、その他の専門職の意見を現状に即した介護計画の作成に参加している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域で安心して生活を送れる場のホームは家庭に変わるものである。緊急時に受け入れ可能であれば柔軟に対応する考えを持っている。「ほほえみ村」の特徴を活かして隣接する事業所の連携、設備や備品の共有、専門職の活用と幅広く多機能性を活かしている。受診、外出、買い物等日常生活に密着した支援が提供されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同敷地内に連携法人のクリニックがあり入居以前からかかりつけ医となっているケースがある。本人や家族の希望で他の専門医を受診したり、耳鼻咽喉科、歯科の通院支援も実施している。協力医療機関が近いことで緊急対応が瞬時に可能である。医師の往診は毎日あり必要な時はいつでも診察を受けられる体制がある。クリニックから看護師の訪問が何度もあり、相談や指導を仰いでいる。医師、看護師と親しい関係が構築され本人、家族は勿論職員の安心にもなっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に重度化や看取りについてホームの指針を説明している。医師、本人、家族、ホームで話し合い看取りの意向を確認している。ホームとの契約が成立した場合、医師の判断で往診があり、繰り返し話し合い、方針を全員で共有できる終末期の介護計画を作成する。揺れ動く家族の気持ちも大切に支援できる体制を医療面と介護面の両輪で支えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>契約時に写真掲載について家族、本人に3段階の区分で説明をし同意をもらっている。相手が特定できる話は避けたり聞こえにくいからとって大声で対応はせず、寄り添った支援を心がけている。記録は家族の面会時に手の届くところに保管してあるが、個人情報の漏洩には気配りがされている。成果を褒め失敗で尊厳を傷つけない支援に取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のおおよその流れはあるが一人ひとりの本人のペースを大切にし、起床、就寝の時間もそれぞれだが昼夜逆転しないよう気を配っている。入居者は集団レクリエーションに参加したり一人静かにのんびりしたり、時には趣味のお茶や生け花を楽しんだり、針仕事をしたりと思いいいに過ごしている。買い物や喫茶店に出かけることもある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材は法人で一括しているが、味付けや切り方は参加した入居者によって違い、それが持ち味になっている。食べる楽しみを大切に、食事量や形態を一人ひとりに合わせて提供している。調理から盛り付け、配膳、食器洗い、片付けと得意分野に力を発揮している。音、匂い、人や調理器具の動きを見ることが食事を楽しむことにつながると捉えている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後のくつろいだ時間で週3回を目安にしているが、毎日入浴、時間の希望、同姓介助等希望に沿えるよう職員間で話し合うこともある。菖蒲や柚子湯を楽しんだり保湿効果のある入浴剤を使用することもある。最近は美肌水を手作りしており、入居者や家族にも好評である。気の合う方との入浴や一人でお風呂を楽しむ方もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる環境と手を出したくなる気持ちを大切に支援している。3ユニット全てを交流できる場と考えて力を発揮したり共に楽しめる機会を支援している。八百屋だった方には野菜について教えてもらったり、華道や茶道の先生だった方には、花を生けたり、お茶を点ててもらったりなど、入居者の経験を活かしてもらう場を日常的につくり発揮してもらっている。また、入居者の自己決定や、本人が役割を持ち発揮することで喜びのある生活となるよう工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	新年は初詣に出かけ帰りにおいしい物を食べる等、いくつかの楽しみが味わえる支援をしている。桜の名所があり花見見物、もみじ狩りなどの外出を支援している。日常的には田園地帯のあぜ道の散歩、敷地内の庭やデイサービスに顔を出して外気に触れたり気分転換を図ることもある。職員がコンビニへ外出する時にも同乗して買い物をしたり、散歩の途中で喫茶店でコーヒータイムを楽しむこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害について話し合う機会を持ち、ホームで過ごす時間を工夫したり入居者の希望に添える支援をしている。交通量の多い県道があるためセンサーを使用したり、大切な命を守ることが第一と考え、時間帯、心身の状況等で単独外出にならない目配り、気配りで寄り添っている。近所の喫茶店や同敷地内の事業所から連絡をもらえる協力体制づくりにも取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同敷地内の施設と連携して避難訓練は夜間想定で年2回実施している。避難経路の確認や初期消火、通報訓練の指導を受けている。エレベーター等の点検は設備会社で2回実施している。レクリエーションや機能訓練を兼ねて入居者は毎朝階段やエレベーターを使用して昇降している。近隣の店に協力のお願いを機会あるごとにしている。3日分の備蓄品の中には救急箱が入っており定期薬は1週間分の薬がセットされており持ち出し可能になっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録しており普段と違う時は申し送りノートで看護職や介護職に情報提供を徹底している。人として経口摂取が大切と捉え医療との連携で支援に力を注いでいる。偏りのない栄養やカロリーは法人内の管理栄養士の協力がある。食事や水分摂取の変化が体調変化なのか、習慣性のものか見極めながらの声かけ、食事形態、量、嗜好品(コーヒー、紅茶、ココア、野菜ジュース等)を支援しており、おかわりは自由である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所が一体になっており調理に参加しやすくなっている。野菜を切る音やお米の炊ける匂いを感じる生活がある中でゲームをしたり、ぬり絵をしたりして過ごしている。気の合う人同士ソファでテレビを見たり話をしたりと上手くテーブルと椅子を配置している。車椅子が自由に移動できるスペースや手すりの設置で使いやすいトイレが確保されている。所々に季節の花が飾られ居間には入居者の笑顔やホームのアイドル「ももたろう」猫の写真、手作り作品が飾られており居心地のよい環境が工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い込んだタンス、くつろいでゆったりと腰をおろせる大きな椅子、ハンガーなどが持ち込まれている。体調や状況により加湿器の貸し出しが可能で過ごしやすい環境を提供している。持ち物をタンス等から自由に出し入れして過ごす時間が大切と捉えている。入居者の笑顔や家族との写真、手作り作品が飾っており、一人ひとりに合わせた環境の工夫がされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。